

■欧州：緑の党、欧州議会選挙で議席数を拡大

2019年5月23～26日にかけてEU全域で行われた欧州議会選挙で、緑の党系の政治会派が議席数を大幅に伸ばしている様子が伝えられている（以下、2019年5月27日時点の開票結果に基づく）。国別に見ると、例えば、ドイツでは緑の党が、前回選挙（2014年）の約2倍となる21%の得票率で、国内では社民党（SPD）を抑え、キリスト教民主・社会同盟（CDU／CSU）に次ぐ第2の議席数（20議席）を獲得した。フランスでは、欧州エコロジー＝緑の党（EELV）の得票率が前回実績を4ポイント上回る13%となり、国内で第3位となる12議席を獲得した。同様に、アイルランド、ベルギー、オランダなどの加盟国でも、環境系の政党が議席数を伸ばしている様子が伝えられており、欧州議会全体では、緑の党系の政治会派（緑・欧州自由同盟グループ：Green／EFA）による獲得議席数が69議席となる見通しである（現有議席数は52議席）。現地報道では、こうした結果が意外性をもって受け止められている向きも見られるが、一方で最近、欧州をはじめ世界各地で、気候変動問題への取り組み強化を訴える運動が若年層を中心に広まっており、こうした動きが、若者の投票行動に影響を与えた可能性も伝えられている。